

第29回 九州私立保育園研究大会

宮崎大会



平成22年11月5日（金）～6日（土）に、宮崎市のワールドコンベンションセンターサミットを会場として九州各地より1,005名の参加者が集い、「みんなの笑顔が見たいから～すべては子どもたちの未来のために～」をテーマに九州私立保育園研究大会が盛大に開催された。

1日目



開会式・パネルディスカッション

第1分科会・第2分科会

第3分科会・第4分科会

第5分科会・第6分科会

第7分科会・交流会



2日目

全体会・閉会式

記念講演

大会決議



[大会開催要綱 \(PDF/195KB\)](#)

〒880-0007宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉総合センター内
一般社団法人 宮崎県保育連盟連合会 事務局
TEL : 0985-28-5835 FAX : 0985-28-5989

Copyright (C) M-Hoiku 2007 All rights reserved. Since 2007/01/01

開会式

11月5日10時より第29回九州私立保育園研究大会・宮崎大会の開会式が行われた。



式典では、主催者の橘原淳信氏（九州私立保育園連盟会長）、平川英輔氏（大会実行委員長）の挨拶があり、そして来賓として、村岡精二氏（宮崎県子ども政策局局长）、佐藤成己氏（九州社会福祉協議会連合会保育協議会会長）、永野繁登氏（日本保育協会九州地区連合会会長）をお迎えし、祝辞を頂いた。



また、今回式典には公務のご都合で出席されなかった東国原英夫氏（宮崎県知事）が夕方に駆けつけてくださり、歓迎の挨拶と現場の職員への激励の言葉をかけられ会場は拍手で包まれた。

パネルディスカッション

「山積する保育制度の行先と我々九州の対応について」

パネラー：

- ・佐藤成己氏（九州社会福祉協議会連合会保育協議会会長）
- ・永野繁登氏（日本保育協会九州地区連合会会長）
- ・橘原淳信氏（九州私立保育園連盟会長）
- ・牧野多津子氏（九州社会福祉協議会連合会保育協議会保育士会会長）

コーディネーター：

- ・井之上隆潤氏（宮崎県保育連盟連合会理事長）

参加者：1,005名



まず、コーディネーターによりこれまでの少子化対策特別部会から始まった保育改革の経緯

及び、子ども・子育て新システムについて説明があり四名のパネラーに意見を頂いた。



四氏ともに現保育制度を変える必要はなく、未来を担う子どもたちの育ちを考えたナショナルミニマムを保育改革が必要である。その為には、財源確保が不可欠である。そして、待機児童問題は行政の怠慢が問題でありこの問題を掘り返られていること自体が問題である。大都市の問題を全国一律に取り上げるよりも、そのためには特区構想の考え方が必要である。我々はもっと政府に現状を伝える必要がある。また、職員処遇の地域格差及び業務の煩雑さに伴い保育に携わる保育士のポテンシャルの低下が危惧されつつある。

このような改悪を打開するためにも、我々九州各団体は一つに団結することが大切であり、九州のこれから先のより一層のまとまりを期待したい。と締めくくられた。

※パネルディスカッションの詳細は[会員専用ページ \(PDF/25KB\)](#)に掲載してあります。ご覧下さい。



第1分科会・第2分科会

[次の分科会](#) [大会ホーム](#)

第1分科会

「保育制度のかかえる課題」

講師：森下 達也 氏（社福）三重県社会福祉協議会会長・（社福）伊賀市社会事業協会会長

参加者：258名

政府が2013年度から実施予定の幼保一体化に関する制度原案が明らかになった。



子ども・子育て新システムは「保育の産業化」を図り「公的責任の縮小」「最低基準の緩和」「応益負担」となるもので、現行制度の大幅な後退とともに、子どもの最善の利益と相反するものである。



このことによって、児童処遇「保育の質」の低下を招くことは必然で、本来「改善・拡充すべき保育制度」が「改善・縮小」となることに大きな危惧を感じている。

じている。

保育がもたらす「利益」は個々の企業が得る利益でなく、子どもの幸せと成長によって社会全体が受ける利益である。保育園は子どもの大切な育ちの場であり、子どもの成長・発達には社会に大きな利益をもたらすものである。

日本の保育は世界でも誇れる内容のものであるのにどうして改革が必要なのか。福祉の原点に帰り改革の撤回、見直しを九州の団結力で全国に広げよう。最後まで決してあきらめない。

第2分科会

「保育所児童保育要録・見えてきた課題」

講師：鯨岡 峻 氏 中央大学心理学部教授

発表者：宇土保育園（福岡県）・杉の子保育園（福岡県）

参加者：171名



第一発表者から、連続性のある子どもの育ちを保障する為に、要録は必要であり、保育園から情報を発信しネットワークを作り、様々な場所へ働きか

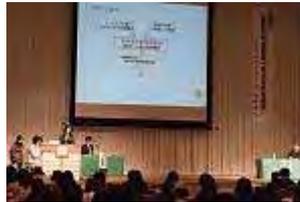
けが必要である。また、様式や書き方の工夫が必要で、保育士同士の連携や質の向上を図ると共に、書面で表現する力を付けなければならない。そして、提出期限をクラス編成が行われるまでとし、書いた要録を繋ぐものとして連絡協議会が行われることが必要であると報告された。

第二発表者からも子どもの育ちを記録として捉え、作成は職員全体で取り組み、日々の保育記録の書き方、表現を見直す必要性、保護者との信頼関係を深めることの大切さ、要録送付だけではなく、日常的な小学校との交流による相互理解の必要性があげられた。

鯨岡先生の講演では、保育要録は、

- (1) 子どもの「知る権利」から子ども自身にとって
- (2) 保育士自身の保育の足跡を見る為に
- (3) 主体としての連続性が保育園と小学校を繋ぐので必要である事。

保育者の養護（受けとめ、支え、認める対応）と教育（誘い、導き、教え、伝える対応）が一对となったものが保育であるという事を考え、一年一年その子の育ちのプロセスが記録として要録に綴られている事が大切であることを学んだ。



そして、その子の姿が見られる書き方がされる事が大切である事を話され、参加者の要録に対する取り組みの意欲がより高まった。

[次の分科会](#) [大会ホーム](#)



第3分科会・第4分科会

[次の分科会](#) [大会ホーム](#)

第3分科会

「保育現場における気になる子どもの評価と保育支援」

講師：牧野 桂一 氏 筑紫女子学園大学 文学部日本語・日本文学科教授

発表者：ゆたか保育園（北九州市）・指江保育園（鹿児島県）

参加者：230名



まず二園よりアスペルガーと判定された園児とADHDなど複数の園児の事例について実践発表があった。

二園ともに共通して個別の記録がとても重要である事を強調されていた。担当が一日一回必ず記入している観察記録や園全体での気づきの記録を活用していく事で、その子どもを客観的に観察でき、又、ケース会議や保護者との面談に役に立っているという事であった。

難しいのが保護者にどう伝えていくかで、関係機関や各種専門スタッフと連携をとりながら、面談を通して信頼関係を作り保護者に伝えていくという話だった。

その後の話では、保護者への対応の難しさや保育士加配など様々な問題の現状が浮き彫りにされた。

最後に講師の牧野先生より2園の発表・質問を踏まえて講演があったが、大切なのはやはり園全体が情報を共有し、担任だけでなく一緒に対応していく事で、褒めることの大切さ、これは子どもにとっても保育士にとっても保護者にとっても共通していることだと話された。



そして、保護者の気持ちに寄り添う事が上手に支援していく事につながっていくという言葉で締めくくられた。

第4分科会

「体調不良児等への対応を考える」

講師：中谷 圭吾 氏 宮崎市小児診療所小児科医長

発表者：かたまち保育園（長崎県）、豊福保育園（熊本県）



参加者：121名

二名の発表者により、「体調不良児等への対応を考える」について、自園での取り組みやアンケート調査を基に実践を報告された。

気づきとして、保護者との連携や職員間の共通理解の大切さが上げられた。フロアーからは、与薬の仕方や予防接種の取り組みについて質問され、各園での方法について発表された。



その後、8グループに分かれ、4つのテーマについて話し合った。その中では、急変時の対応、新型インフルエンザや他の感染症などの対応について関心が高く、活発な意見交換がなされた。

講話については、「HIBと肺炎球菌を中心に小児の予防接種の現状」と「保育園における体調不良児への症状別対応・感染症対応・急変時の対応」について丁寧に説明して頂いた。

参加者は熱心に傾聴し、関心の高さが感じられた。

[次の分科会](#) [大会ホーム](#)



第5分科会・第6分科会

[次の分科会](#) [大会ホーム](#)

第5分科会

「保護者や地域における子育て支援」

講師：花野 典子 氏 宮崎県立看護大学教授

発表者：つぼみ保育園（沖縄県）、日吉保育園（熊本県）

参加者：55名



保護者や地域における子育て支援として大切な事は、まず親に目を向け、共感したり認めたりすること。その中で、育児不安を解消し、子育ての楽しさや喜びを持たせる事によって、それが子どもに反映されていく。それには、保育士が「支援」という言葉をしっかり受け止め、専門性を生かし、意識して行くことが大切である。その手立てとして、日々の記録を文章化して残し、いろんな形態の会議の場へ移し、それを全職員で、共有し良い方向へと解決して行く事にある。

社会は、変化するので、それに伴い子育ても変わってくる。どんな子育てをするのか・したいのか母親に聞く事。まずは、受け止めて、一緒に考えていくことが大切である。

・子育て支援に必要な指針として

1. 支援する場は親子にとって安心の場であること。
2. 母親の立場に立って母親の子どもに対する思いを感じつつ子どもの発育をアセスメントする。
3. 子どもの持てる力を見極め、発揮するチャンスをつくり、出来たことを母親とともに喜ぶ。
4. 子どもの生活は家族の営みそのものであるから、母親の生活から子どもの生活を描く。
5. 母親の困っていることを受け止め、先人たちが見出した育児の知恵を提供する。
6. 母親の子育てを否定せず、子どもの発達段階を踏まえた方法をともに考える。
7. 母親と子どもの間に生じた対立を見抜き、解決の糸口をつかむ。
8. 家族関係を描き、母親を支えてくれている人の存在に母親が気付く。
9. 子どもの24時間の生活を描き、生活の中で生命力を消耗させている事柄を見抜く。
10. 母親が今までの育児を振り返り新しい挑戦のきっかけをつくる。



以上、1年目も10年目も経験年数に関係なく、同じ指針の下、取り組む事が望ましい。

第6分科会

「食で丈夫な体と豊かな心を育てよう」

講師：幕内 秀夫 氏 フーズ・アンド・ヘルス研究所代表

参加者：77名



現在、子どもたちを取り巻く環境の変化は、食に関しても大きな影響をもたらす。そこで、「子どもの食生活--10の提案」と題し、日ごろの家庭・保育園での食事について講演された。

1. しっかり外遊びをさせよう
2. 子どもの飲み物は、水・麦茶・ほうじ茶
3. 朝ごはんをしっかり食べさせる
4. 子どものおやつは食事
5. カタカナ主食は日曜日
6. 副食の基本は野菜・海藻類
7. 動物性食品は魚介類を中心にする
8. 未精製の米を常食する
9. 食品の安全性に配慮する
10. 食事は楽しく・ゆっくりと



以上の事を心にとめて、保育園での子ども達の丈夫な体と豊かな心を育む食育活動に取り組んでいきたい。

[次の分科会](#) [大会ホーム](#)



第7分科会・交流会

[全体会・閉会式](#) [大会ホーム](#)

第7分科会

「保育園としての危機管理を考える」

講師：脇貴志氏 株式会社アイギス代表取締役

参加者：83名

今、保育園に迫り来る危機として、「こども・子育て新システム」の内容と子どもの安全な環境・園での危機管理体制（職員が同じ尺度で理解すること等）に以下の点について学んだ。



1. 危機管理の基礎1：危機管理の第一歩は自分たちの園の正常な姿の定義づけから始まる。
2. 危機管理の基礎2：保育園の安全基準を持たなければならない。
保育園の安全基準＝保育園の正常な姿。
3. 「こども・子育て新システム」のポイント・「子ども園」・「公的保育契約制度」・「イコールドファイティング」・「子ども指針」＝幼稚園教育要領+保育所保育指針・トランポリン型社会。
4. 保育の内容と安全のバランス
保育市場への新規参入組は、おそらくニーズを詰め込むことにより、競争してくる。でも、その競争に乗るのではなく、保育園の土台をしっかりと作ることが大切である。
5. 事故発生のメカニズム
事故の発生は複数の要因が重なったときに起こり、その複数の要因の一つを防げば事故の発生を抑えることが出来る。
保育園にとって、最善の事故防止策は人材育成である。
6. 感染症型リスクへの対応
情報をごちから発信して行く事。主導権をごちらが握り続けることが大切である。
7. 保育園とマニュアル
マニュアルには園を正常に保つため、基本方針・価値観を明確に記載することが大切である。



交流会

分科会終了後、参加者の慰労と親睦を兼ねて交流会が行われた。会場は県内外の参加者が一

同に集まり、これからの保育について情報交換が活発に行われていた。



盛り上がるにしたい、保育にかける思いが熱く語られ、ここでも九州は一つの場目が見られた。

アトラクションとして、宮崎の伝統芸能として有名な「日向ひょっとこ踊り」の踊り手が舞い始めると会場は笑いの渦が沸きあがった。また、「じゃんけんゲーム」ではエキサイトした場面も見られ始終和やかな交流会であった。



[全体会・閉会式](#) [大会ホーム](#)

全体会

まず、議長団が承認され、本大会決議（案）の朗読・承認、分科会報告、そして、時期大会開催県（北九州市）の承認及び挨拶がされた。



閉会式



平川英輔（大会実行委員長）のお礼の挨拶の後、■生命（いのち）のつながり、家族の絆」～誰がまもる子どものいのち～■をテーマに、次期開催地（北九州市）のアピールが壇上で行われ、塚本美津代氏（熊本県保育協会理事長）の閉会の挨拶で二日間に渡る大会が盛会の中閉会した。

今回、宮崎県は、四月に発生した口蹄疫による影響で畜産業界を中心に大きなダメージを受け、その影響はいまだに県内の経済・産業界に及んでいます。

保育園においても然り、夏祭り等の行事が軒並み延期又は中止となり、楽しみにしていた地域のイベント等もなくなりました。その様な中、全国の多くの保育関係者の仲間からたくさんの募金と励ましのメッセージを頂きました。心から感謝申し上げます。



これからも「がんばろう！宮崎」を合言葉に、我々保育関係者一同、復興に努力し、未来を担う子ども達の為に質の高い保育が継続できるよう真剣に議論し、行動を起こし、実現していく所存です。それがまさに今です。全国の保育園関係者の皆様！一緒に頑張りましょう。

最後になりましたが、皆様方のご活躍と保育に懸ける熱い思いに望みを託しお礼の言葉といたします。



記念講演 大会ホーム

記念講演

[大会決議](#) [大会ホーム](#)

記念講演

「サトシンさん」こと佐藤伸氏（えほん作家）による『「やってみよう、おてて絵本」～おててから“心”が見えてくる～』と題して講演が開催された。



初めにサトシンさんが自己紹介をかね、今年のNHKみんなのうた8・9月分で放送された自作「きみのきもち」のうたを絵本の画とともに歌っていただいた。



おてて絵本が生まれるきっかけは、20年前娘さんがお父さんに聞かせるために始めた読み聞かせで最初は絵本（当時まだ字は読めなかったが）を持っていたのに、後半は絵本ではなく手を絵本に見立てて聴かせ、話に合いの手を入れていくと想像を膨らませ楽しいお話をどんどん作ってくれたと言う。ここからサトシン家のお手軽親子コミュニケーションとして始まったのである

その後2006年8月に地方雑誌のコラムで紹介すると反響があり、世の中の潜在するニーズに気づき2007年4月に「おてて絵本普及協会」として活動を開始した。地元新潟のTV新聞等から今ではNHK教育テレビ「みいつけた！」での放送も行なわれている。

「おてて絵本」とは？

手のひらを絵本に見立てて、子どもと大人がお話づくりを楽しむコミュニケーション遊びである。親子のコミュニケーションを楽しく育み、子どもの想像力や創造力を豊かに広げ、親子ともに思いやりの心を育むものとなっている。

「おてて絵本」の良さは？

何もなくてもできる。お金もかからない。場所や時間を選ばない。子どもも大人も楽しい。すつとこどっこいなお話がドンドン出来る。想像力、創造力が養える。日常会話だけでは見えなかった子どもの内面が見える。コミュニケーションが深く、濃くなる。毎日の生活の中に、無理なく楽しくコミュニケーションの機会を創造できそれを習慣化することができる。

一方、子どもは、褒められ、認められ、成功体験を積み重ねられる。幼少時から表現することの楽しさに気づく。幼少時からコミュニケーションの楽しさが実感できる。プレゼンテーション能力も向上する。大人も子どももコミュニケーションスキルが向上する。思いやりの心を育むことができる。自分（親）の育児姿勢を見直すきっかけになれる。記録し続けることによって世界でひとつの親子だけのお話集に、それは成長記録としても機能する。作文、詩とはまた違う奔放な新しい表現の可能性 がある。

「おてて絵本」の遊び方は、

1. おてて絵本をはじめましょう
2. お手本を聞かせてあげましょう
3. 主人公を決めてもらいましょう
4. こどもの話を聞かせてもらいましょう
5. お話に合いの手を入れましょう
6. お話を結末に向かわせましょう
7. 楽しかったことを伝えましょう
8. お話を記録しましょう



専業主夫として育児・家事に取り組んだ経験を通し、絵本作家としてデビューしたサトシンさんのお話は心から魅了されるものだった。



会場の人に実際に「おてて絵本」をしてもらったり、自作の絵本「うんこ」の読み聞かせをして頂いたり熱いエネルギーを感じながら子どもと楽しく向き合うことの大切さを強く気付かされた。私たちも、また明日から目の前にいてくれる尊い宝物のような子どもたちと、たくさんのコミュニケーション遊びを積み重ねてゆきたい。

みなさんも、明日から「おてて絵本」でコミュニケーション遊びいかがですか・・・

[大会決議](#) [大会ホーム](#)



大会決議

[大会ホーム](#)

子どもたちと保育を守る決議

『みんなの笑顔がみたいから～すべては子どもたちの未来のために～』をメインテーマとして、ここ「太陽と緑の国」宮崎においての第29回九州私立保育園研究大会に1,000余名が集い、熱心な研究討議を行いました。

いま政府においては、本年1月29日に閣議決定された「子ども・子育てビジョン」を基にした、「子ども・子育て新システム」についての検討が進められています。その基本制度案要綱は目的・方針を掲げるとともに◆政府の推進体制・財源の一元化◆社会全体（国・地方・事業主・個人）による費用負担◆基礎自治体（市町村）の重視◆幼稚園・保育所の一体化◆多様なサービスの一体化◆ワーク・ライフ・バランスの実現、といったような新しいシステムを実現するとしています。その議論は、検討会議作業グループ内に設置された「基本制度WT」「幼保一体化WT」「こども指針（仮称）WT」といった三つのワーキングチームに委ねられました。

私たちは、その議論の在り方について注意深く見ていく必要があります。それは、「子どもたちの健全な育ちを保障できるのか」であります。それぞれのWT構成員には我々の代表が参画しているからといって、安心するのは早計です。現在、中央の保育三団体はまとまった動きをしていません。またそのほかの構成員も財源難にあえぐ政府の方針に沿った意見を述べる人が多数を占めているのです。

次の時代を担う子どもたちを立派な国民として育成することにおいて、国がその責任から遠退いてよいのでしょうか。社会全体による費用負担の名のもとに、保護者負担がこれ以上増大してよいのでしょうか。基礎自治体重視の名のもとに、一部大都市の待機児童対策とも受け取られる保育制度改革によって、地方間格差が拡大してよいのでしょうか。また、幼保一体化・多様なサービスの名のもとに介護保険法や障害者自立支援法、さらには後期高齢者医療制度などがもたらした不幸に、例を重ねる不安を覚えます。

私たちは、子どもたちの幸せやこの国の未来図を描くとき、このような懸念を拭い去ることができません。

政府は来年1月までに議論を終え、3月の通常国会に法案を提出、平成25年度の施行（一部においては前倒し実施）を目指すとして大急ぎで作業を進めていますが、子どもたちの幸せを考えると、このような重要案件をわずか半年たらずで決めてしまおうとしていることに大きな危惧を感じます。幼保一体化ひとつを取り上げても、それぞれの保育園・幼稚園には半世紀もの歴史があり、私たちの不安と懸念は大きくなるばかりです。

そんな今、私たちは「子どもたちと保育」を守るために次の事項について決議し、関係各方面に訴えてまいります。

財政最優先の「子ども・子育て新システム案」には絶対反対します。

日本の未来を託す子どもの育成には、責任ある国の予算が必要です。
憲法・児童憲章の理念に則った「幸せと思える子育て」を実現すべきです。
拙速な幼保一体化議論ではなく、真に子どもたちの健全育成のため、十分な議論を尽くすべき
です。
子どもたちや保育を市場経済の「渦」に巻き込むべきではありません。
政府はこのような懸念の声に、真摯に対応すべきです。

平成22年11月6日

第29回九州私立保育園研究大会・宮崎県大会・参加者一同

[大会ホーム](#)

第29回 九州私立保育園研究大会

宮崎県大会開催要綱

大会テーマ

みんなの笑顔がみたいから

～すべては子どもたちの未来のために～



期 日

平成 22 年 11 月 5 日(金)～6 日(土)

会 場

ワールドコンベンションセンター・サミット

参加者

1,000名

主 催

九州私立保育園連盟

主 管

(社)宮崎県保育連盟連合会

後 援 (予定)

宮崎県・宮崎市・宮崎県社会福祉協議会
宮崎市社会福祉協議会・~~社~~全国私立保育園連盟
九州社会福祉協議会連合会保育協議会
日本保育協会九州地区連合会

社会保障審議会少子化対策特別部会での数年にわたる議論はまだ結論を見ないままですが、現場をあずかる私たち保育関係者から見てコスト論や経済効率優先が先行し「子どもたちの幸せ」には程遠いものでありました。

昨年、政権が交代し、保育を含め子育てに関する論議は厚生労働省から内閣府に移ってしまいました。いわゆる「子ども・子育て新システム検討会議」です。この会議の趣旨は“幼保一体化を含む新たな次世代育成支援のための包括的・一元的なシステムの構築について検討すること”となっており、4月の第5回・第6回作業グループの会合では関係団体からのヒアリングを行うなど、その議論のスピードたるや目に余るものがあります。

さらにはコスト論優先に拍車を掛けるがごとく現れた「新しい公共」円卓会議。福祉の文言が見当たらない「社会事業法人論」を目玉にしたその議論の中で、保育は「産業化」されようとしています。そんなことになると、利益追求型の市場主義を所管する経済産業省に移されることになりかねません。子どもたちの未来はどうなるのでしょうか。大きな不安がよぎります。

菅総理の就任時の記者団質問に対する回答「介護や保育は今後の経済成長の分野です」という言葉が非常に気になります。先に、介護保険において営利企業が参入した際、その第一義的目的である利益を追求するあまり不正請求の問題を起し、利用者はもちろん社会にも不幸な状況を引き起こしたことは記憶に新しく、同じ状況が「保育」においても導入されるとなれば、国の未来を担う子どもたちにとって、とても不幸な方向へと進むのは明らかで、子どもたちの最善の利益につながるとは到底思えません。

私たちの先達は、戦後の復興時から児童福祉法に支えられ懸命に子どもたちの養育教育に携わってきました。この法律の一部改正はあったものの世界に誇れる立派なものとして現在まで引き継がれ、私たちもまた、これを糧に子育て支援を含めた保育の分野で乳幼児の健全育成に励んでいます。

保育所保育指針が改定された昨年の鹿児島県大会では、“子どものころが”「見える保育の発信を」～保育の質を高めるために～、がテーマでありました。今回の宮崎県大会では鹿児島県大会での成果を踏まえつつ、第1分科会では制度問題について、第2分科会では保育所保育指針特に小学校との連携部分について、第3分科会と第4分科会では多様な配慮を必要とする子どもの保育について、第5分科会では子育て支援の更なる機能充実について、第6分科会では子どもの成長に有効な食について、第7分科会では事故や感染症そして不審者対策にかかる危機管理について学び合い、時代に合った“保育や子育ての本質とは何なのか”の研究討議を深めます。みんなの笑顔が見られるための出発点にできればと考えます。

～すべては子どもたちの未来のために～

九州の保育関係者は、三団体一体となって一連の保育制度改革論議に反対を唱え、解りやすく解説した4コマ漫画や要望の署名など保護者をも含めた運動を展開してまいりました。

第1日目のパネルディスカッションでは

その運動が実を結ぶのでしょうか或いは水の泡となってしまうのでしょうか

新しいシステムの中に子どもたちの幸せを見出せるのでしょうか

いま、議論されていることと保育所保育指針との整合性が保たれるのでしょうか

などを中心に、九州保育三団体それぞれの会長ならびに保育士会会長をお招きして検証するとともに、今後の保育の方向性を考えてみたいと思います。

また、記念講演では“サトシン”さんの心温まるユニークなお話が聴講できるものと期待しています。関係の皆様のご参加をお待ちしています。

宮崎県内における家畜の伝染病「口蹄疫」に関しまして、皆様に大変ご心配をいただき、心から感謝申し上げます。

パネルディスカッション

『山積する保育制度の行方と我々九州の対応について』

- コーディネーター 井之上 隆潤 氏 (宮崎県保育連盟連合会理事長)
- パネラー 佐藤 成己 氏 (九州社会福祉協議会連合会 保育協議会会長)
- 〃 永野 繁登 氏 (日本保育協会九州地区連合会会長)
- 〃 橘原 淳信 氏 (九州私立保育園連盟会長)
- 〃 牧野 多津子 氏 (九州社会福祉協議会連合会 保育協議会保育士会会長)

第1分科会 『保育制度のかかえる課題』

対象：理事長・施設長等 定員：300名

講師 森下 達也 氏

三重県社会福祉協議会会長・伊賀市社会事業協会会長

我が国を支えていくのは、未来を創る子どもたちです。経済優先の規制改革の中で、子どもの健やかな育ちがますます危ぶまれています。こうした保育をめぐる動向、時代の要請、地域のニーズをしっかりと見据え、保育園が本来持っている使命、役割を再確認しましょう。

第2分科会 『保育所児童保育要録・見えてきた課題』

対象：主任保育士・中堅保育士 定員：120名

講師 鯨岡 峻 氏 中京大学心理学部教授

発表：福岡県・福岡市

平成21年度より、保育園から小学校へ就学する子どもに関する情報を送付することが義務づけられました。それは、小学校との連携を重視し、子どもの育ちの連続性を大切にすることを意味しています。

本分科会では、初めての保育要録作成と送付を経験し、発達と学びの連続性を実現するためにどのように保育要録作成に取り組んだか、また見えてきた課題は何かを研究協議します。

第3分科会 『気になる子ども・配慮を必要とする子ども』

対象：保育士等

定員：120名

講師 **牧野 桂一 氏** 筑紫女学園大学教育学部 日本語日本文学科教授

発表：北九州市・鹿児島県

今、保育園では、気になる子どもや配慮を必要とする子どもが増えてきています。現場の保育士は、子どもとどう関わればいいのか、また、保護者との相互理解をどう深めていけばいいのか等、悩みながら保育をする事も少なくありません。

私たち保育士が、気になる子どもやその保護者に向き合う時、何を一番大切に考えたらいいのでしょうか。保育の方法や環境、保護者支援、そして保育士の姿など、いろいろな角度から学び、知識を深めます。

第4分科会 『体調不良児等への対応を考える』

対象：保育士・看護師等

定員：120名

講師 **中谷 圭吾 氏** 宮崎市小児診療所小児科医長

発表：長崎県・熊本県

保育園で子どもが急に体調を崩したり、また病気が完治していない子どもが薬を持参してきたりなど、保育の中でのトータルケアが煩雑化しています。

そういう体調不良児に対してすぐに対応できない家庭が増えている現状を踏まえ、保育士や看護師がどのように子どもたちを身体的・精神的にケアをしていけばいいのか、その効果的な手法を学びます。

第5分科会 『保護者や地域における子育て支援』

対象：保育士等

定員：120名

講師 **花野 典子 氏** 宮崎県立看護大学教授

発表：沖縄県・熊本市

子どもの笑顔があふれる明るい社会を築くために保育園では、地域と連携し子育て支援を展開していくことが必要です。

保育園は、多様化している子育て支援ニーズに応えるために機能を充実し、子育て支援の拠点として積極的に支援活動を行っています。

本分科会では、その事例を通して学びを深めます。

第6分科会 『食で丈夫な体と豊かな心を育てよう』

対象：栄養士・調理師等

定員：120名

講師 **幕内 秀夫 氏** フーズ・アンド・ヘルス研究所代表

食を営む力の育成に向け、それぞれの園で計画・実践活動が進められています。

あらためて、丈夫な子どもに育つための基本の食事について学びを深め、保育園の食事を見直す契機になることを願って、今こそ風土にあった基本食を!!

第7分科会 『保育園としての危機管理を考える』

対象：施設長・主任保育士・保育士等

定員：100名

講師 **脇 貴志 氏** 株式会社アイギス代表取締役

昨年、流行した「新型インフルエンザ」に関しては、保育園としても様々な対応、保護者への支援及び理解、職員の知識の定着など、保育園の危機管理を見直す機会となったのではないのでしょうか？

この分科会では子どもの安全な環境等、園での危機管理体制（職員が同じ尺度で理解する等）についてあらためて考えましょう。

11/6 全体会・記念講演・閉会

記念講演

講師 サトシン（佐藤 伸）氏
 演題 『やってみよう、おてて絵本』
 ～おててから“心”が見えてくる～



プロフィール

佐藤 伸 ● 1962年 新潟県出身

第一子の誕生をきっかけとして子どもとベッタリ関わる生活に憧れを抱き、妻の産休明け職場復帰と同時に広告制作プロダクションを退社。専業主夫として育児・家事に取り組みつつ、フリーのコピーライターに。専業主夫時代の子育て経験を通して「おてて絵本」を発案し、絵本作家としてデビュー。

◆育児のモットーは「ベタベタしない。だけどバサバサしない。」

日程

時間	11月5日(金)	11月6日(土)
9:00	9:00～ 受付開始	9:30～ 全体会
10:00	10:00～ 式典	10:00～ 記念講演
11:00	10:50～ パネル ディスカッション	11:30 記念講演終了
		11:30～ 閉会式 11:45 大会終了
12:00	12:00～ 昼食	
13:00	13:00～ 分科会	
14:00		
15:00		
16:00	16:30 分科会終了	
17:00		
18:00	18:00～ 懇親会 ワールドコンベンションセンター ・サミット	

大会参加のご案内

□ 参加費のご案内

大会参加費 12,000 円 (お一人様)

□ お申込締切日

平成22年9月24日 (金)

□ お申込先

名鉄観光サービス(株) 宮崎支店 (担当: 児玉・後藤・緒方)

〒880-0001 宮崎市橋通西2丁目4番20号

TEL: 0985-24-1414 FAX: 0985-20-7355

□ お申込・参加券 (請求書) の送付と代金振込みについて

申込書に必要事項をご記入の上、9月24日(金)まで名鉄観光サービス(株) 宮崎支店までお申込みください。お申込みは FAX 又は郵送にてお願いいたします。

10月上旬頃に「大会参加券等」と一緒に「振込口座名が記載された請求書」を同封し、各園へ送付させて頂きますのでお振込ください。尚、振込手数料は各自ご負担をお願いいたします。

□ 昼食 (お弁当) について **11月5日(金)**

お一人様 1,000 円 (お茶付 税込み)

大会会場にはレストランはございません。できるだけお弁当をお申し込みください。(当日のお申し込みはお受けできませんので、予めご了承ください)

□ 懇親会について **11月5日(金) 18:00 ~**

ワールドコンベンションセンター・サミット

お一人様 8,000 円(消費税・サ込)

□ 宿泊のご案内 **11月4日(木) 大会前日 ・ 5日(金) 大会当日**

《 1泊朝食付料金 》

(消費税・サ込)

ホテル名	部屋タイプ	記号	宿泊代金(円)
シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート	ツイン シングルユース	S - 1	16,000
	ツイン	S - 2	11,000
サンホテル フェニックス	ツイン シングルユース	A - 1	11,000
	ツイン・トリプル	A - 2	8,000
	4名以上(和室)	A - 3	7,000
ラグゼー ツ葉	ツイン	B - 1	8,000
	3名~5名	B - 2	7,000
コテージ・ヒムカ	ツイン	C - 1	6,000
	3名~8名	C - 2	5,000

《 1泊2食付料金 》

(消費税・サ込)

ホテル名	部屋タイプ	記号	宿泊代金(円)
シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート	ツイン シングルユース	1-1	19,500
	ツイン	1-2	14,500
	夕食会場:「ハインテラス」		
サンホテルフェニックス	ツイン シングルユース	1-3	14,500
	ツイン・トリプル	1-4	11,500
	4名以上(和室)	1-5	10,500
	夕食会場:「樹海」		

◆ご注意◆

- ※ツインをご希望の方は、必ず事前に同室希望名をご記入ください。ご記入がない場合には、弊社にてお部屋割りをさせていただきます。
- ※各ホテルのランク及び部屋タイプは受付順とさせていただきます。
- ※第1希望が満室の場合は、第2希望になる場合もございます。予めご理解ください。
- ※宿泊決定についての詳細は、後日発送の宿泊券にてご案内させていただきます。

■ 会場のご案内



<大会会場>
 ワールドコンベンションセンター・サミット

<宿泊>
 シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート
 サンホテルフェニックス
 ラグゼーツ葉
 コテージヒムカ

<交通のご案内>

◆宮崎空港 → シーガイア
 (1) 直行バス 約 32分 830円
 (2) タクシー 約 20分 約 4,500円

◆JR 宮崎駅 → シーガイア
 (1) バス 約 25分 500円
 (2) タクシー 約 15分 約 2,500円



□ 国内旅行傷害保険のご案内

3日間 / 11月4日(木) ~ 6日(土)

保険料 / お一人様 500円

大会参加中のお怪我や盗難など、万が一の場合に下記内容を補償いたします。

死亡・後遺障害	入院日額	通院日額	賠償責任	携行品	救援者費用	臨時費用
1,305万円	2,500円	1,500円	1,000万円	5万円	50万円	60万円

□ 個人情報の取扱いについて

- (1) 大会参加申し込の際にご提出いただいた個人情報については参加者との連絡のためにのみ利用します。
- (2) 大会参加とあわせて当社募集型企画旅行にお申し込みの場合は、運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配及び受領のための手続に利用させていただくほか、必要な範囲内で当該機関等に提供いたします。
- (3) 上記の他、当社の個人情報の取扱いに関する方針については、当社の店頭またはホームページでご確認ください。

□ 変更・取消について

- (1) お申し込み後、お客様の都合により変更・取消される場合は、下記のとおり取消料を収受させていただきます。なお、変更・取消につきましては、お申込書の控えに直接変更事項及び取消内容をご記入いただき、必ず FAX にてお願いいたします。お電話での変更・取消はトラブルの原因となりますので受付いたしかねます。
- (2) ご入金後の変更・取消による精算は大会終了後1ヶ月以内に処理させていただきます。大会当日会場でのご返金は出来かねますので予めご了承ください。
- (3) お客様のご都合でご予約を取消される場合、以下の取消料（違約金を含む）を申し受けます。
- (4) 大会申込後の大会参加費は返金できません。大会終了後、資料の送付に換えさせていただきますのでご了承ください。

◇ お取消料 ◇

	30日前以降	20日前以降	7日前以降	前々日	前日	当日
参加費	返金いたしません					
宿泊費	無料	10%	30%		50%	100%
交流会費	無料	無料	50%		100%	
昼食費	無料	無料	無料	無料	100%	
夕食費	無料	無料	30%	50%	100%	
保険費	無料	無料	無料	無料	100%	

□ お問い合わせ先

宿泊・交通・懇親会 等に関するお問合せ

名鉄観光サービス(株)宮崎支店 大会デスク

〒880-0001 宮崎市橘通西2丁目4-20号

TEL: 0985-26-1414 / FAX: 0985-20-7355

(担当: 児玉・後藤・緒方)

営業時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日は休み)

* FAXの申込みは24時間受付いたします。

大会に関するお問合せ

第29回 九州私立保育園研究大会 事務局

((社団法人 宮崎県保育連盟連合会))

〒880-0007 宮崎市原町2-22 宮崎県福祉総合センター内

TEL: 0985-28-5835 / FAX: 0985-28-5989

(担当: 清武・谷口・柳嶋・川越)

第29回 九州私立保育園研究大会 参加・宿泊等申込書

※ お申込み締切り日 《平成22年9月24日(金)》

各種予約券 請求書 送付先	県・市名 県・市	法人 団体名 住所	施設名	担当者
〒.....		TEL.....		
		FAX.....		

NO	フリガナ お名前	性別	職名	参加費	希望分科会		懇親会	宿泊希望			昼食 (お弁当)	大会 保険	小計	備考 (ツイン同室希望者等)	
					第1 希望	第2 希望		申込 記号	11/4(木) 前日泊	11/5(金) 当日泊					第2希望 申込番号
例	ミヤザキ タロウ 宮崎 太郎	男	園長	12,000円	1	3	11/5(金) 8,000円	A-1	11,000	11,000	S-2	1,000	500	43,500	
1														
2														
3														
													合計	円	

※申込書のコピーを控えとして、必ずお手元に保管して下さい。
 ※お申込みが4名様以上の場合、用紙をコピーしてご使用下さい。
 ※この申込書を名鉄観光サービス(株)宮崎支店へFAX又は郵送にてお申込み下さい。
 ※払い戻し返金時の振込先口座を下記に必ずご記入ください。
 ※諸費用の納入につきましては、10月上旬に名鉄観光サービス(株)宮崎支店より
 宿泊券等各種利用券及び請求書が届いた後、請求書に記載された指定の期日
 までにお振込願います。
 ※申込書受信(受取)の確認をFAXにて翌日までに送り返していただきます。
 (到着が営業時間外及び休日の場合は、翌営業日になります。万が一受付の確認
 の通信が無い場合には、お問い合わせ下さい。)

金融機関名	支店名	口座種目	口座番号
口座名義	(フリガナ)		
※申込書受信(受取)確認欄 (名鉄観光記入欄)			

お申込み・問い合わせ先
 名鉄観光サービス(株)宮崎支店
 担当: 児玉/後藤/緒方
 TEL (0985) 26-1414
 FAX (0985) 20-7355